1、鉄　道

A、開通の歴史

吉野川南岸の徳島市から、名西郡石井町に入り、字浦庄から本町牛島駅を経て、鴨島駅・西麻植駅を通り、川島から池田町に延びる東西の鉄道を「徳島本線」と呼ぶが、この路線は最初、明治二八年（一八九五）資本金八〇万円で、徳島鉄道株式会社が創立され、初代社長に大串竜太郎、副社長には本町の川真田徳三郎がなった。

明治三二年二月一六日、徳島駅（当時は寺島駅といった。）と鴨島駅間一八・九kmの鉄道が、本県最初の鉄道

として誕生した。東京横浜間の鉄道開通から二四年後のことである。

共同汽船の創立といい、本県最初の鉄道敷設といい、藍で蓄積された本町の経済力と、当時の本町民の旺盛な企業意欲をうかがい知ることができておもしろい。

続いて鴨島・阿波川島間（三・八㎞）が開通し、牛島・鴨島・西麻植の各駅が開業されるようになると、本町の交通は画期的な発展を見た。翌明治三三年八月には山川町船戸駅まで路線が延びたが、その当時、一日七往復で一日に二五〇円以上の収入があると、職員には賞与が出たという話が残っている。その後、明治四〇年九月一日政府によって買収せられ国有鉄道に編入された。創立当初は営業不振で苦しんだようであるが、衆望に推されて社長となった創設の功労者の川真田徳三郎は、見事赤字経営を建て直して会社の急を救うことができた。のち東に延びて小松島港と結び、国鉄となってからは、しだいに西に延長されて、大正三年三月二五日、阿波池田まで開通して阿北の交通運輸の様相が一変した。麻植塚駅（無人駅）が設けられたのは、昭和九年であるが、太平洋戦争が始まって一旦廃止されたが戦後復活した。昭和二八年には阿波中央橋の開通によって、鴨島駅から鳴門行・穴吹行きの国鉄バス・徳島バスが運行せられるようになって、吉野川北岸との連絡もよくなり、本町は吉野川中流の中心都市として、将来の発展への基礎を確立したといえる。

町内各駅一日平均乗車人員調

	明治三四年	大正九年	昭和一〇年	昭和二三年	昭和三七年
牛島駅	一一五人	二八四人	五六五人	二五九二人	八五二人
鴨島駅	一二九人	四一〇人	一二〇五人	三九八五人	三八五六人
西麻植駅	五〇人	八四人	三三四人	六〇三人	四九八人

B、町内の各駅

鴨島駅は町の中央にあり、小松島起点三〇・〇一㎞、バス・自動車も発着し、準急阿佐号の停車駅として交通の中心を形成し、一日平均約四、〇〇〇人の乗降客があって、徳島駅についで県下第二位の成績をあげている。中央橋と鴨島三本松間主要道路の完成によって、鳴門・穴吹・香川県三本松間にもバスが開通し昭和三一年一月には陸橋の完工があり、同三五年には駅前広場が拡張せられ、三八年三月にはその舗装工事が完成せられる見込であり、その他駅前中央通りの新設も計画されており、大鴨島の表玄関としての面目を一新しようとしている。

牛島駅は小松島起点二六・二㎞の地点にあたり、本町東部の国鉄駅として、また、付近に森永乳業徳島工場・八興被服等の工場があって、牛島・西条線の潜水橋の完成と、徳島バスの運行で、乗降客一日平均約一、〇〇〇名が利用しているが、昭和三五年一月貨物取扱が廃止された。

西麻植駅は、鴨島の西方一・八八㎞にあり、近くに江川遊園地があるので観光地の入り口として、春秋の好季には行楽客でにぎわい、夏はキャンプをする人々が多く集まるようになった。南方二㎞に国立徳島療養所があり西北方にある粟島渡しを経て、阿波郡市場・八幡町方面の人々にも多く利用されている。

麻植塚駅は、昭和九年九月二〇日、地元民の強い運動によって、無人駅として開業したが、昭和一五年八月、太平洋戦争のため一旦廃止された。戦後土地の人々の強い要望によって復活し、利用者をよろこばせている。

旅客輸送状況（昭三八年末現在）

輸送機関	区間	運転回数	定期	普通	計（年間一日平均）
国鉄徳島本線	徳島・池田	一八	五、六〇二人	二、五六三人	八、一六五人
徳バス川島線	徳島・川島	七〇	三〇六	一、七六三	二、〇六九
省営バス 銀治屋原線	銀治屋原・鴨島	八	—	二三五	二三五
省営三本松線	三本松・鴨島	六	—	三八	三八

貨物輸送状況

輸送機関	区間	運転回数	貨物	一日平均量	備考
国鉄徳島本線	徳島―池田	二往復	農産物生糸木材	三九二t	(般出)生糸農産物 (般入)木材雑貨
トラック	徳島―高知	一四往復	農産物雑貨木材	二六t	農産物 雑貨工業材料

C、スピードアップと準急阿佐号

近年生活の繁雑化にともない、交通機関のスピードアップの要望に応えて、国鉄の経営もしだいに改革せられた。蒸気の力にたよる汽車はしだいに数がへり、朝夕のラッシュ時に限って運行せられ、ほとんどが「ジーゼルカー」に切りかえられて、徳島・穴吹間は上り下りとも約三〇分おきに発車し、国鉄職員の親切なサービスとともに旅客を満足させている。

さらに国鉄では昭和三七年四月一二日から、小松島・高知間に準急「阿佐号」を走らせ、徳島本線では、徳島・石井・鴨島・穴吹・貞光・池田など五カ所で停車し、小松島・高知間を約三時間二〇分で結び、長距離旅客の便宜を計って利用者に大変よろこばれており、さらに準急の増発も考えられている。